

平成 28 年 6 月 22 日

中国の「木構造設計規範」に対応したモデルパターンの設計結果について

一般社団法人 日本木材輸出振興協会
事 務 局

近年、中国の人々の所得の上昇と健康意識の向上を背景に、「安全、健康、快適の木造住宅」の購入者は、従来の高所得層から中所得層（2010年時点約3億人）へと広がり始めている。

また、これまで購入された木造住宅の特徴をみると、高所得者が面積300～600m²の広い2階建て、南欧・北米・日本の様式又はこれらの様式に個人の嗜好を加えた複合様式を、中所得者が100～300m²の2階建てか3階建ての欧米風木造を好む傾向が見られる。

一方、中国国家標準「木構造設計規範」においては、木造住宅の建設は現在のところ3階建て以下と定められているため、これまで建てられた木造住宅は主に高所得者を対象にした広い敷地付きの2階建て邸宅などに限定されていたが、中国の住宅城郷建設部では昨年からは、多層高層木構造の建築技術の研究開発や技術規範の策定を進め始めている。

このような中、当協会では産官学の支援や協力を得ながら、「木構造設計規範」の改訂に参画し、スギ、ヒノキ、カラマツが構造材料としての利用可能な樹種の記載及び軸組構法の位置づけを実現するなどの取組を進めている。

以上の状況や動向を踏まえ、当協会は、林野庁の平成27年度「新たな木材需要創出総合プロジェクト」のうち「海外での地域材利用事業」の一環として、日中双方の木構造設計関係有識者・専門家からなる「木構造設計規範に対応したモデル設計検討委員会」の助言の下に、中国の木構造設計規範や木造ニーズに対応でき、かつ、中国市場における技術、品質の比較優位を有し、日本産木材の良さ、技術の高さ、安全、健康、快適な住まいの建築のノウハウを発揮できる木造軸組住宅のモデルパターンの設計に取り組み、別添の4モデルパターンの設計を完成した。これらのモデルプラン図は、中国市場向け国産材を利活用した木造部材及び木造住宅の輸出事業を展開している産地・事業者の皆様の参考になることを期待する。